

2022年10月15、22日 SSS(高1)授業「まちづくりの先行事例 - 神山町 (徳島県)」

資料：ワークシート 2-4

前回の講座では、生徒たちがそれぞれの街についてパワーポイントを作成し、全員が、そして選ばれた代表によるプレゼンテーションを行いました。改めて身近な街のことを考える良い機会になったと思います。これからは、この講座の担当教員がフィールドワークの候補地として訪ねた街、都市、地域のまちづくりの先行事例を紹介していきます。あえて様々な規模の街を対象としていますので、比較的人口の少ない街から、規模の大きな街へとという順番で進めます。自分たちが調べた街の課題や取り組みとの比較検討において、関心を持って聞いてください。

● 神山町 (徳島県) の事例

神山町を訪ねた吉田教諭と松野教諭からお話を聞きます。神山町は、徳島市内からも車で45分、周囲を標高1000メートル級の山々に囲まれた場所に位置し、誰がここまで来る？と思わせる山深い道中だったそうです。なぜそのまちに移住者が押し寄せ、サテライトオフィスが増え続けているのかとも興味が湧きませんか。



【神山町の課題】

人口減少：以前には「消滅可能都市一覧」の20位にランクされています。人口減少は公的なサービスの削減となりさらなる人口減少を招き、確実に街の消滅に繋がります。

【対策】

サテライトオフィスやアーティストの誘致：30年前にこの町に戻った大南さんがキーパーソンとなり、自分のまちを面白い場所にしたいという思いから、シリコンバレーをイメージしてNPO法人グリーンバレーを設立しました。できない理由よりできる方法を考えるとモットーのもと、ミッションを「日本の田舎をステキに変える！」としました。Wi-Fiなどの環境を整え、自然の美しさという神山らしさを最大限にアピールし、そこで仕事や創作活動ができるギャップで新しい世代の価値観に訴えかけました。集まり始めると、同じようにそこで刺激を受けたいという相乗効果で移住者が増え、多様な人の知恵が融合する場、創造的過疎による持続的な地域づくりを実践しています。

【具体的な取り組み】

アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)/サテライトオフィス支援事業/アドプト・ア・ハイウェイ神山/Bed & Studio プログラム/神山塾/神山町移住支援センター委託管理/コワーキングスペース「KVSOC 神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス」や「神山農村環境改善センター」の指定管理事業/森づくり事業/その他神山が神山であるための事業の運営など新規事業開発中

【新しく創造された新しいビジネスの事例】

Hidden Library/えんがわオフィス/神山しずくプロジェクト/B&B Onywaのカフェオニヴァ/栗カフェ/靴りヒトリヒト/KAMIYAMABEER/Week 神山 他

神山町が魅力的なまちづくりのために柱としている6つの働きかけ

1 すまいづくり

神山町の木材を使った住宅など

2 ひとつづくり

神山まると高等専門学校の開校など

3 しごとづくり

神山塾でのレクチャーを通じた新規事業開拓など

4 循環のしくみづくり

FOOD HUB プロジェクトの地産地消で神山の農業を次世代につなぐ取り組みなど

5 安心な暮らしづくり

神山塾での滞在型職業訓練等

6 関係づくり

新しい取り組みなど住民が関わる物事の決定のプロセスを大切に

●番外編（徳島は他でもすごい！）

同じく徳島を訪問した北川教諭より、徳島県でのその他のおもしろい取り組みの紹介がありました。

【勝町の「ごみゼロ」】

20年前にごみゼロを宣言、ホテルを兼ねたゴミ収集ステーションを中心に活動を広げる。2020年にはごみリサイクル率80%を達成（全国平均19%）。

また高齢者向けの仕事として葉っぱビジネスを展開、システム化し全国の料亭などを対象にしたビジネスに発展させ大成功している。豊かな自然が宝の山であることを証明し、住民の多くを占める高齢者の就労意欲の向上、シビックプライドの向上にも貢献。

【木頭地区の「未来コンビニ」】

コンビニなどあるわけのないような田舎に未来的なコンビニを建設したことで、地元の子供からお年寄りまで住民の集う場所作り、そして話題を呼び、遠方からも何万人という人が訪れる場所に。ここからこの次のアクションが始まることを期待できる。

それぞれの村がそれぞれの村の将来を考えている独自の取り組みがとても面白い。それを参考に皆さんにもいろいろ考えてもらえたらいいと思います。



2022年11月5日 SSS(高1)授業「パネルディスカッション～大阪公立大学武田重昭先生を再びお招きして」

資料：ワークシート 2-6

以前、「まちづくり」について講義をしていただいた武田重昭先生を再びお招きして、改めて生徒たちの疑問や意見についてパネルディスカッションをしていただく機会を持つことができました。舞台上上がった生徒は8名、6名がパネラーとして、2名が司会としてです。これまでの半年間の学びを振り返り、またパネラーと武田先生のディスカッションを通して、皆で2つのテーマについて考え、最後は欧州と日本のまちづくりにおける違いについて意見をまとめたかと考えています。

パネルディスカッションの後には、武田先生による「フィールドワークの方法」について講義もしていただきました。



● パネルディスカッション

【生徒パネラーの住んでいる（住んでいた）街紹介】

生徒1：奈良県在住、小学生の時アメリカイーストチェスターで生活

生徒2：京都府木津川市在住

生徒3：京都府京田辺市在住、中学卒業まで沖縄県宮古島で生活

生徒4：滋賀県草津市在住、以前はドイツニュルンベルク、アメリカで生活

生徒5：アメリカで3年間、カザフスタンで3年間生活

生徒6：京田辺市在住、以前マレーシア、タイに計7年間生活

【テーマ1】

欧州では一般化しているが、街をよくすることによって自分の生活が良くなるという考え方が日本では新しい考えとして主流化していないのはなぜか。

生徒4「欧州では、宗教が生活に根付いていて、定期的な教会での集まりを通して地域の人たちや地域との繋がりがもともと深いのではないかと思います。」

生徒3「アメリカではご近所の人たちとの関係が深かったが日本では薄く感じています。また日本では宗教での連帯感がなく、それぞれがバラバラな気がしています。」

生徒2「日本は自分の土地はきれいに掃除もする習慣があっても周りは気にしないところがあると思います。公共の場は行政がするという感覚が強そうです。」

生徒1「日本ではまちづくりに関して、自分がするというより誰かがしてくれるものという感覚が強いです。」

司会「自分の行動で街がよくなったという経験はありますか？」

生徒2「地域の清掃活動に参加したことがあります。」

生徒4「滋賀県の用水路での清掃活動があり、その後は個人でも気が付いた人がするようになったことはよいことだと感じました。」

生徒3「宮古島ではビーチでのボランティア清掃活動が盛んです。地域の大人が中心に活動が広がっています。」

生徒1「小学校で近隣の山に登り、清掃活動がありました。」

【武田先生から】

生徒たちの感じていた日本と欧米の宗教感の違いを良い視点だと認め解説してくださいました。欧米は人が神様となり一神教であることに対して、日本では古来より万（よろず）の神といい、神様は自然全般に存在するものです。欧米で、自然は自分たちのために役立つものという捉え方に対して、恵も災害もすべて神様から与えられていると受け止めてきた経緯がある日本では、自然を敬い、私たちが変えるなんて罰当たりだとう意識が環境に対する積極性を失わせているという文化的な側面もあるのかもしれない。

また日本が近隣との関わりが少ないということについては、日本でも戦前までは助け合いなど密なコミュニティーが存在していたところ、戦後に欧米を目指そうという中でコミュニティーが揺らぐ都市の生活になっていったという経緯を説明してくださいました。

そして、大切なのはこれから、ただ単に欧米や欧州の真似をすればいいというわけではなく日本らしい解決、対策を立てていけるようなアイデアが出てくることを期待しているとアドバイスをくださいました。

先生はちょうど翌日に地域の清掃活動に参加される予定があるそうです。こういった昔から続いてきた地域の活動に若い人たちも参加することは地域の人たちも喜び、様々な年代間で良い交流ができる中、課題や解決策も見つかるのではないかとおっしゃいました。

⇒まちの環境を整えることからまちづくりに参加できている！

⇒本来の日本では、郷土愛もあり地域のコミュニティーもとても密であった。欧米化で地域の関係が希薄になってしまった面がある！これから見据えると、やはり日本らしいまちづくりや解決策を若い人たちもアイデアを出し合って考えていくことが大切！

【テーマ2】

京都のように伝統的な街並みが残るところで、景観を1から作るわけにもいかない。すでにある街を住民が美しいと感じ、楽しいと思える場所にするために、都市計画はどうあるべきか。

生徒6「住民と行政の両方の意見を聞くことが大事だと思います。桜の木を撤去したい行政と残したい住民の意見が対立したときは、どちらかが完全に妥協するのではなく双方が納得する形の解決があればいいなと思いました。」

生徒5「京都の伝統的な古い町並みはやはり魅力的だと思うので、そういったものを残しつつ新しいレストランなど作るのはいいと思います。」

生徒4「誰もが住みやすい街を作るには、行政と住民が連携した取り組みが必要だと思っていて、でも例えば私たち高校生が行政にアプローチするのはハードルが高いイメージ。もっと意見の交流が気軽にできればいいと感じます。」

生徒3「京都に来て出身の沖縄を説明するうちに、それまで嫌いだと思っていた沖縄がとてもいいところで好きだという気持ちが芽生えました。客観的にその街をみる立場から、その街の都市計画を考えるということも意味があるのではないかと思いました。」

生徒2「自分の住んでいる地域のことを案外知らないのではと思いました。若者はネットで情報交換することができるので、もっと地域の情報を交換することで、よい都市計画のアイデアも生まれるのではないかと思いました。」

生徒1「その地域に住む人たちとの密接な話し合いが必要だと思っていて、一方的な提案ではなく、様々な面からまちづくりに取り組むことが必要ではないかと感じました。」

生徒4「日本が嫌なわけではないのに、イメージで、アメリカはいいな、楽しそうということを言われたことがあります。日本人はそういうイメージに囚われすぎ？」

【武田先生から】

金曜日の夜の楽しみとして、グッドムービーを見に行くか、ナイスパーティーを開くかという問いかけをご紹介いただきました。グットムービーは選択肢の中から選べばいいのですが、ナイスパーティーは自分で開かないといけません。誰を呼び、何を食べ、どんな出し物をしようか考えないといけません。そこで日本人はグットムービーを選びがちです。今ある選択肢からいいものを選ぶのがいいことだと考えがちです。ナイスパーティーを開こうとする人は少ない傾向にあると感じます。それが都市計画においても同じことではないかと思っています。そして生徒たちの進路においてもこうおっしゃいました。進路もそうです、人生の選択はある中から選ぶということだけではなく、自分は本当に何がやりたいのかというナイスパーティーを開かないと大きな人生にならないのではないのでしょうか。そのマインドが都市計画に対してもすごく重要なことではないかという気がしています。また、ないものを残念がるよりもあるものを活かすことも可能性が大きく広がることだと感じます。

京都の街については、形、佇まいが美しいというのはもちろんあるけれど、そこで暮らす人たちの暮らしぶりが大切で、楽しい暮らしを作っていける市民かどうかです。行政と市民のよい関係作りで、納得いく話し合いをすることで平等は難しくても公正に物事を決めることはできます。行政も市民の延長線上、自分たちのしていることが行政に繋がっているということも念頭に置くことです。リノベーションとありますが、壊して新しくするのではなく、環境の面からも建物は残し伝統的な景観を守りつつ、新しい使い方を考えることで暮らしを豊かにするという時代になっています。

⇒立場を超えたディスカッションや話し合いこそがよいまちづくりの一番大切な要素！

⇒ナイスパーティーを開こう！！

【欧州と日本のまちづくりの違いは】

日本と欧州のもつ人間性の違い、歴史的背景の違い

自分のまちをよく知っているか、シビックプライドを持っているか
まちづくりに関わることができると感じているか、人任せと感じているか

(武田先生からのディスカッションになかった内容の補足として)

文化の違いという側面の中で、石の文化と木の文化の違い

日本は建て替えていく文化、その技術もある

●フィールドワークについて



武田重昭先生に、普段どのようなフィールドワークを実施されているのかお話を伺い、生徒たちの今後のフィールドワークの参考にさせていただくことになりました。

【武田先生のお話より】

都市はそれぞれ違います。まちづくりは実験室では作れません。「歴史に学ぶ」か「他都市に学ぶ」、そして机上で学ぶことと現場で学ぶことは、学べば学ぶほど関係性や共通点が増えていくことを体感してもらえたらいいと思います。これはフィールドワークの大きな意義です。都市はいろいろなものが影響を及ぼし合っていて複合的に成り立っているのです。そこを理解するために調べます。それぞれの関係性が都市の醍醐味でもあります。さらには、都市は生きています。過去現在、そして未来はどうなっているか時間軸があるところが難しいところでもあり、面白いところでもあります。1つの取り組みにより、暮らしが変わっていくのを実際に見て、変化を理解することも大事な都市を捉える視点です。正しく自分で理解するために、また新しい発見のためにフィールドワ

ークに行きます。

【大学のゼミナールに求める8つの力】

FWもこの全てのステップに当てはまる

インプット：	聞く力	→都市とは何か
	課題発見力	→都市の魅力を探る
	情報収集力	→都市を集める
	情報整理力	→都市を整理する
	読む力	→都市を読む
	データを分析力	→都市を分析する
アウトプット：	書く力	→都市を書く
	プレゼンテーション力	→都市を伝える

ゼミでは講義を聞くという学びではなく、自分で主体的に学ぶということをします。そのための8つの力です。これらは大学での学び方ということだけではなく、創造的な仕事をするとき、豊かに生きていくために求められるスキルでもあります。限られた時間で、フィールドワークの手順として、ひとつひとつのステップについて大事な点を解説してくださいました。現場で理解を深めるために正しい情報をえるための準備、自分なりに理解する必要性、学んだことを論理的に整理すること、その結果を取りまとめて伝えるところまで、このプロセスをすべて経てフィールドワークへ行った成果だといえます。

～まちを読む（理解する）ための4つの視点～

地域文脈を解読するための手がかりとして、街を様々な「層」の重なり合いであると仮定して4つの軸の重なり合いでみると理解しやすいです。

自然軸（自然の構造）/空間軸（空間の構造）/生活軸（生活の構造）/歴史軸（どう変わってきたか）

京田辺市の市街地図と都市計画マスタープランを例に情報の捉え方を詳しく教えてくださいました。地図の見方次第で大変多くのことを理解できると知りました。

●放課後のランチ会

放課後には、希望者の生徒たちと先生とランチを囲みました。武田先生のお話を聞いて興味を持つようになったという生徒も増え、とても気軽にお話をさせていただける、ディスカッションに続き大変貴重な機会となりました。

武田先生、今日はお忙しい中にも関わらず、生徒たちのために時間を作ってください本当にありがとうございました。



2022年11月12日 SSS(高1)授業「京田辺市について～京田辺市長の講演に向けて」

資料：ワークシート 2-7、京田辺市都市計画マスタープラン（概要版）

11月には豪華な外来講師の方々の講演が続きます。前回の講座では、武田重昭先生を再びお招きしてパネルディスカッションの機会を持ち、またフィールドワークについての準備や要点を丁寧に解説していただきました。今日は、その振り返りを坂下教諭、そして再来週の講座では京田辺市長をお迎えしてお話を伺いますので、その事前準備のための講義を京田辺生まれ京田辺育ちである北川教諭、そして大学生時代から京田辺キャンパスにも関わりを持つ朴元教諭、そして京田辺市のマスタープランの解説については松野教諭にお願いします。

●前回の武田先生の講演の振り返り 坂下淳一教諭



【まちづくり研究は他面的な視点から】

快適なまちには人が集まります。まずはそういった視点を元に、どういうまちに人が集うのか勉強し、新しい発見をして欲しいと思います。武田先生のお話からも、まちを構成している要素は多種多様です。多方面、例えば土木建築学、社会学、心理学、行動経済学、AI、デザインなどなど、アプローチの方法も多様です。正解は一発では決まらないという面と、そして言い換えると誰にでもアプローチできる可能性も十分あります。引き続き、いくつかのまちを実際に訪れた教員が紹介していきます。今日は京田辺市です。再来週には市長にも直接来ていただくことになっています。自分ならどういう風に関わりたいか、関わるができるか、どうしたいか、そのような視点も持ってしっかり話を聞いてください。

●京田辺市の今と昔について 北川浩司教諭

【京田辺市の編成】

生まれも育ちも、そして仕事も京田辺市という北川教諭。東京オリンピックの年に誕生し、それ以降の京田辺を見てきました。歴史やその時の印象などお話を伺いました。

1970年代後半：田辺中学の学生だったころ、あちこちで

「同志社校地」という看板をよく見るようになり、同志社が来るということを意識するようになる

1980年：同志社国際投稿学校が開校し、田辺中央病院も開院

そのころ、新しい住宅地が造成され、大住中学という新しい中学も開校



高校時代には京都市内に通学するようになり、改めて京田辺が田舎であることを認識
1997年：京田辺市の人口は5万人を超え、綴喜郡田辺町か市制執行により京田辺市へ
結婚を経て大型ショッピングモールのアルプラザができ便利にもなった
2002年：人口はついに7万人超え。今も増加傾向

他にも、1960年代の興戸や三山木の駅、娯楽だった鉄橋の下の木津川水泳場の様子などモノクロ写真を紹介してもらいました。写真をみて、そして生粋の京田辺市民の北川教諭からお話を聞くことで、生徒たちは時代の流れや京田辺市の歴史を改めて目の当たりにして感心しきっている様子でした。

●京田辺市と同志社 朴元惘怜教諭

【同志社大学と同志社国際高等学校、どちらが先に京田辺に来たでしょう】



朴元教諭は同志社大学神学部で学び、新島襄によって導かれた同志社について、どのように京田辺市と縁が結ばれてきたのかをお話を伺いました。

【良心に束縛された自由】

新島襄の自由の考えの土台にはキリスト教があります。新島襄がアメリカで学ぶ中、「自由」を重んじ、また自由を制限するものは「良心」だけでいいということを理想としました。つまり良心から行うことは限りなく自由だと考えたのです。例えば人に言われてするのではなく、自分の心に問うて自分の心をコントロールするということ。良心に基づいて判断し、行動したいと、同志社で学ぶ私たちは学んできました。

【同志社が京田辺でキャンパスを開校するまで】

新島襄がアーモスト大学で学んだときに感じたこと、広大なキャンパスで、周りに何も無い、誘惑もない、そのような土地で自由な発想が生まれると信じ、日本でもそれができればと思いました。今出川キャンパスと新町キャンパスが同志社の開校の土地になりますが、その後も施設の増設に伴い新しいキャンパスが求められる中で、その場所はいくつかの候補地からここ京田辺に決まったのです。緻密な計画と長いスパンでこういった計画は実現するわけですが、その根底には新島襄がアーモスト大学で感じた理想や希望が脈々と繋がっていました。

京田辺キャンパスができたころ、先に同志社国際高等学校は既に開校していました。しばらく何も無い田舎のままで、朴元先生は大学生の当時もこんな田舎に通うのはとてもごめんだと感じたそうですが、今ではそこに通勤していることも何か新島襄と朴元教諭との縁を感じさせられるお話でした。

●京田辺市都市計画マスタープラン 松野翔太教諭

【都市は生きている】

2つの京田辺市の新旧の地図を比べてみると、様子がずいぶん変わったことを一目で確認することができます。どうやって街は作られてきたのか、こういった変化は「都市計画マスタープラン」により区域の整備や開発及び保全などの基本方針が示され、それを策定し、実行されています。マスタープランは、住民の意見を反映しまちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地域別のあるべき「まち」の姿を定めるものです。皆さんは普段気にしていないかもしれませんが、マスタープランは公開され、もちろん皆さんもアクションをできる仕組みになっています。実際に見てみると、京田辺市でもつい数か月前にも改定されていることがわかります。武田先生のお話にもありましたが、土地利用に関して、市街化区域と調整区域など用途を決めて整備されています。ちなみに本校のある場所は文化学術推進ゾーンとなっています。こういった住民の意見が反映される余地ある仕組みがあり、まちづくりが行われていることは知っておいて欲しいと思います。



次週は吉田教諭から京田辺市都市計画マスタープランについてさらに具体的にお話を聞きます。この学期の最後の講座では、京田辺市長に実際に来ていただきお話を聞く予定になっています。直接お話を伺う大変貴重な機会ですので、しっかり学び、課題にもある質問等を準備してください。

2022年11月19日SSS(高1)授業「まちづくりの先行事例 -岡山市、富山市」

資料：ワークシート2-4、2-5、京田辺市都市計画マスタープラン（概要版）

前回の講座では、京田辺市のまちづくりについて、「これまでの編成」「武田先生の講座の振り返り」「今と昔の京田辺市の変化を住民の目を通して」「同志社と京田辺市のこれまでの関係」そして「京田辺市の都市計画マスタープラン」と学びを深めてきました。今日は、「都市計画マスタープラン」について続きを吉田教諭より、そしてまちづくりの先行事例の紹介として以前のワークシートにある「岡山市」を坂下教諭より、「富山市」を帖佐教諭と北川教諭より、それぞれ街を訪問し現地の印象や担当者の方に伺ったお話を報告します。

●都市計画マスタープランに私たちはどう関わることができるのか

以前に学んだ徳島県神山町のまちづくりにおいては、繋がる公社があるということが特徴的でした。先日のディスカッションでも官民が繋がるということが、よいまちづくりにつながっているという話がありました。京田辺市では、京田辺市の都市計画マスタープランをホームページで随時公示し、それに対するパブリックコメントを一般募集しています。寄せられたパブリックコメントの全てと行政の回答は公表されています。

パブリックコメントの一例

募集期間：令和3年11月15日（月）から令和3年12月15日（水）まで
（ご意見の概要1）「歩いて暮らせる快適な街作り」の項目に、「主要幹線と生活道路の分離による住民の安全 確保」を加えるべきだ。道路整備の……

（ご意見に対する考え方）ご指摘のとおり、山手幹線の混雑度が増してきていることから、本市では、本計画 P75「(1) 幹線道路の整備」●主要幹線道路に記載のとおり、山手幹線（北部地域）の交通対策の検討を行い、山手幹線の抜本的な混雑解消に向けた取り組みを進めることとしています……

（ご意見の概要3）三山木駅を単独で拠点とするには時期尚早ではないか。理由として、中部と比較して食事ができる店舗が限られていることや、市役所・図書館の分所機能がない(一部あるが)ことが挙げられる。三山木駅を……

（ご意見に対する考え方）本市が目指す京田辺市型集約都市構造では、本市を北部、中部、南部の3つの地域に分け、それぞれの地域の拠点駅周辺に都市機能の集積を図り、効率的でコンパクトなまちづくりを進めることとしています。ご意見にもあるとおり、

……

京田辺市ホームページ/パブリックコメントの実施状況より

<https://www.city.kyotanabe.lg.jp/0000008531.html>

他にも、大型商業施設新設における交通渋滞の懸念、アルプラザ京田辺店の拡大を要求、ヤマダ電機を作って欲しい、近鉄とJRの京田辺駅を直結して欲しい、などの意見も寄せられ

ています。紹介は一部ですが、自分が住んでいるまちで、市に要求もできる、このような形でまちづくりに関わることができる、ということを念頭に置き今後の話も聞いてください。

●岡山市の事例

人口約 72 万人都市。これは大阪市 270 万人、枚方市 40 万人、奈良市 36 万人、京田辺市 7 万人、と比べてわかるように岡山市は比較的大きな都市です。県立図書館の来館者、貸出冊数、新刊購入は日本一です。ただし、人口減少にともなう中心市街地の空洞化、車中心のまちでは人の行き交いが減りまちの回遊性が失われつつある状況が課題となっています。



【愉しみつくる岡山の暮らし方】

これからのまちづくりは、様々な住民にとって安全安心で快適なまちづくりとしました。

岡山市のまちづくり事業を行う上での 2 つの目的
「車中心」から「人優先」の安全で快適な「歩いて楽しい」道路空間の創出
幅広い年代、多種多様な方が魅力とを感じる空間の創出

【取り組んだ事業】

県庁通り：車線を減らし歩道を広く、また道を少し曲げて木を植えベンチを設置
⇒こういった計画を進めるのに社会実験的に試行錯誤しながら、最初は批判的だった地への理解を深めるために 5 年かけました。

下石井公園：マンションなどビルの谷間にあって閑散としていた公園を芝生の憩いの場へ
⇒48 日間の社会実験として人工芝を敷いてみると、あっという間に人が多く集まるようになり、現在は本格的な芝生化に向けて設計や工事が始まっています。

行政と市民が対話を重ね、行政が取り組みについて理解を求めるときは、データよりわかりやすいイメージを伝えポジティブな変化を説明したそうです。そして社会実験やイベントを通して、実際にやってみて、うまくいかなかったこと、いったことを実証し、検証し、理解を得ながら進めていくという方法をとっています。

●富山市の事例

人口 41 万人都市。近隣には、金沢や新潟といった観光都市があり、北陸ではどちらかという印象が薄いかもしれません。ところが、海の幸に恵まれた富山湾から登山家を魅了する 3,000 メートル級の山々までが織りなす自然の姿は世界第一級の景観を誇ります。北陸新幹線の延伸も完成すればさらに違い場所にもなります。帖佐教諭の訪問時は、あいにくの通行止めで、東京経由の新幹線で 5 時間かけて向かうしかなかったそうです。また従来富山



市は全国的に「くすりのまち」としても有名です。北川教諭からも、かつてご実家に薬を背負って常備薬を売りに来た富山の薬売りのお話を伺いました。その独自の商売スタイルもあり、全国を巡ったことから、上杉謙信のスパイではという説も残っているそうです。富山のイメージが膨らんできましたが、まちづくりはどのように進められてきたのでしょうか。

【コンパクトなまちづくり】

富山でも、やはり人口減少、超高齢化社会を見据え、その課題に向き合っています。そこで、過度に車に依存した社会の見直しとして歩いて暮らせるまちの実現を目指しました。2006年にはヨーロッパなどで見られる本格的なLRT（次世代型路面電車システム）を日本で初めて導入し、バリアフリーや騒音や振動面でも改良された「富山ライトレール」を開業、翌年には中心地に全天候型の多目的広場「グランドプラザ」の開業、2009年には市街地を循環する先進的現代的デザインの「セントラム」が運航を開始し市民に親しまれています。

富山市の公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりの3本柱

公共交通の活性化

公共交通沿線地区への居住促進

中心市街地の活性化

【富山市民の誇り】

2009年からは国内外に戦略的に情報を発信するシティプロモーションを展開し、富山市の認知度と都市イメージの向上を図っています。地域に秘められたポテンシャルを引き出すには「シビックプライド」の向上が後押しになると考えたからです。合言葉は「AMAZING TOYAMA」です。例えば、アメイジングトヤマ写真部、アメイジングポスター、フォトフェスティバルでは、市民が写真を通して富山の魅力を発信、アメイジングトークでの若者によるディベート、富山や富山を拠点に活動する人の紹介など、市民をボランティアとして巻き込み活動を広げています。

【リーダーシップ】

こういった取り組みで富山市のまちづくりは多数の受賞歴があります。人口を増やすという目標は持たず、コンパクトなまちで人口減少や高齢化に備える、しかも住民が誇りを持つ快適なまちづくりを推進しました。こういった活動を精力的に牽引した森前富山市長の存在も大きかったといえます。現在市民に嫌がられることであっても、将来市民のために「今」やらなければならないという熱意を持ち、まちの郊外への拡散を止め、公共交通をブラッシュアップして車中心の暮らしをシフトさせる政策を実行しました。街を花で飾ったり、花束を買い電車に乗ると無料といったしゃれた取り組みもあります。前市長もこういったまちをよくするための工夫や取り組みを市民と一緒に楽しんでしているという印象です。

2022年11月26日 SSS(高1)－講演－「京田辺ってどんなまち」－上村 崇 京田辺市長

資料：ワークシート 2-9

2 学期最後の講座、京田辺市の上村市長をお招きし直接お話を伺うことのできる貴重な機会となりました。これまで生徒たちは、まちづくりにはどのような視点があるのか、どのようなまちづくりが理想的なのか、自分の周りのまちでは何が起きているのか、様々な観点から学び、持続可能なまちづくりについて考えてきました。私たちにとって大変身近な京田辺市についても、改めて機会を作り学んできたことから、今日の講演を楽しみに迎えました。

●生徒たちによる司会進行



京田辺市在住の生徒たちが今日の司会進行を務めました。まずは舞台裏でご挨拶。上村市長は、政治家、市長であり、生徒たちの普段の生活とはかけ離れた存在でありながら、気さくに接してくださいました。市長ご自身も同志社香里高校ご出身の内部生であり、生徒たちが同志社大学へ進学すれば先輩となり、そういった共通点からも親しみをたくさん感じることができました。

●上村崇市長講演「京田辺ってどんなまち」

市長が同志社国際での講演のために用意してくださった資料は、Google Classroom で共有しています。ここでは、講演のお話から印象的だった言葉をピックアップして紹介します。

「京田辺が皆さんのホームタウンになることを願って」

このせっきくの機会に、将来このまちが生徒たちにとっても大切なまちになることを願って、と話してくださいました。

「ネイティブ京田辺」

生まれも育ちも京田辺の地元民である市長。「ネイティブ京田辺」、大学生時代に友人たちからそう呼ばれていたそうです。そのくらい、京田辺に通学している学生たちにとって京田辺は田舎で何も無い、魅力のない場所だったのです。市長はそう思われていることを心の中で悔しいと感じ、良いまちにしたい、まちづくりに関わりたいと思い、政治家を目指す原点になりました。

「47 都道府県全て訪問！」

なかなかこれを達成している人は少ないと思います。市長が若いころより全国 47 都道府県を訪れ、また海外にも行く機会を得て感じたことは、実際にその地に足を踏み入れ感じ考え



ることで新たな視野が広がっていくので、そういったことを大切にして欲しいとアドバイスをいただきました。

「京田辺市は京都市や大阪市にはなれない！ならない！！」

京田辺市は交通の結節点であり、新名神が完成すればますます主要な都市部へのアクセスがよく恵まれた立地となります。交通の要であるということは歴史上、発展のポテンシャルがとても高いこともわかっています。まちの現状を踏まえてどう進んでいくか。生徒たちは刺激のあるまちが良いと思う年代ですが、どこかの都市と同じようになることが正解なのか、独自の良さとは何か、そういった観点でまちづくりを考えて欲しいとおっしゃいました。全国的な人口減少の中、京田辺市は人口増加の傾向にあり、将来の人口フレームを8万人と設定し、長いスパンでインフラの整備などを進めています。実は京田辺市では大学の下宿生などの比率が高く、そういった住民へのサービスも必要になります。便利なまち、自然豊かなまち、関西文化学術研究都市、といったまちの利点を踏まえてこれからの京田辺のあるべき姿をぜひ一緒に考えてくださいとおっしゃっていました。

「みんなでまちづくりを考える」

京田辺市では、まちづくり協議会を組織し、多様なまちづくりの主体によって構成されるコミュニティで地域の課題を掘り起こし、問題解決に取り組んでいます。公共を多様な主体が担っていくことはこれからの公共のかたちであるという信念のもと、市長は生徒たちに、自分のできる立場に関わり、公について共に考えて欲しいと願われています。時代の流れとともに地域コミュニティの希薄化が進むなか、困った時は助け合うような、皆が手を携えて問題を解決できるような温かいまちづくりがしたい。そのために「協働」は将来を見据えたまちづくりの大きなキーワードです。

●一問一答

生徒たちの質問にも時間ぎりぎりまでめいっぱい答えていただきました！

市を魅力的なまちにするために、心がけていることは何か？
多くの方々との交流

人口が増加しているがその原因は何か？それに伴って生じている問題はあるか？
鉄道の開通で住宅地の開拓整備による人口増加の一方、近年では高齢化が進みその対策が必須

大阪市や京都市のように都市化計画はしているのか？
都市化ではなく良いまちへ、今後も多くの人に市に関わってもらおうきっかけ作りを

同志社が京田辺市に与える影響は何か？
皆さんのような若い年代の人たちがいる！このアドバンテージを活かすこともこの先の課題

市長になる動機は？
市長になって京田辺市に対する思いの
変化はあったか？
実家が京田辺、今は離れた場所で働く同
級生たちの自慢の故郷にしたい

市長をされていてよかったことは何か？
また苦労したことは何か？
こうやったらいいんじゃないかとい
うことが実際にうまく進むと嬉しいが、
難航すれば地道な再検討や苦労も多い

まちづくりを進める上でのコンセプトは？
「市民参加型」市が全てを担うことはできない

市長の仕事の魅力や大変さは？
市長、政治家としての活動で、休みが少なく趣味も制限がかかる
ただし、単なるお金儲けではない、社会のために関わっているというやりがい、まちづ
くりに関わる誇り。そして自分の思いを発信できる仕事、共感してもらえた時の喜び

京田辺をどんなまちにしたいのか？理想のまちの
ために私たちは何ができるか？
「ワクワクするおもしろいまち」「人が集うまち」
なにより京田辺を好きになってもらいたい！

「いつまでも住み続けたいま
ち」に近づくためには？
シビックプライドを育む

これから有権者になる私たちに伝えたいことは？
そのまちのことをよく知って、より好きになって欲しい！
どんなことを目指しているかを知り、そして一緒に考えて欲しい！

●講演が終わり

講演の最後には、「これから皆さんが京田辺のことを知り、より身近なホームタウンとなっ
ていけるよう頑張っていきたい」と力強く話してくださいました。今日は限られた時間のな
かで、高校生に向けて思いのこもったお話をしてくださり、質問にも名確に答えてくださ
いました。何より、市長の京田辺への愛が伝わり、また、行政という一見、高校生には遠い話
も身近に、そして分かりやすく解説してくださいました。生徒たちも最後まで、市長のお話
に聞き入り、上村市長を好きになり、応援したくなり、そしてその市長が行政をリードする
京田辺に改めて関心を持ったはずです。今日の講演のお話の中には、これまで授業で学んで
きた内容とつながることも数多くあり、また新たな気付きもあり、大変貴重な時間となりま
した。

上村市長、大変お忙しいなか、今日のような機会を作ってください本当にありがとうございました。

2023年1月7日 SSS(高1)授業「まちづくりの先行事例 ー東京都渋谷区」

資料：ワークシート 3-1

3学期最初の講座、まちづくりの先行事例として坂下教諭による渋谷の再開発についてのお話です。ちょうどタイムリーなことに、今朝のニュースで渋谷駅改良工事に伴う山手線終日運休が報道されていました。街の発展の歴史とともに、線路やホームが複雑に入り組んでいた渋谷駅ですが、その大々的な付け替えや統一の大改修が行われています。小学校から大学までこの山手線で通学していたという宗教科の朴元教諭の渋谷のイメージもバラバラなものが混在して集まっているイメージだそうです。今回は坂下教諭のご友人でオリンピックの有明体操競技場など数々の建築を手掛けられている高橋秀通氏とのお話の中で、まちづくりに携わっている部署を紹介していただくことができ、このようなタイムリーなお話を伺うことができました。

【渋谷再開発】

- 日建設計 金行美佳さん（都市・社会基盤部門都市開発グループ ディレクター）

日建設計で渋谷の都市開発に携わる中心人物です。渋谷未来デザインの設立から参画し、プロジェクトデザイナーとして規制緩和やエリアマネジメントの仕組みづくりに取り組まれています。

- 公共施設と民間の力を活用

公共施設などの建設、維持管理、運営などを民間の資金、運営能力および技術的能力を活用。協力してやっけない限り開発は不可能。

- 100年に1度といわれる大改造

関東大震災後、街の発展とともに各鉄道事業者が路線を増やし、駅舎を継ぎ足し続けた結果、同線が混乱。老朽化、谷になっている土地の特徴ならではの弊害、地震や災害時の備えの脆弱さなど街全体を再構築する必要性。

「土地建物所有者が混在していて、計画は利害が一致せず困難では？」という疑問に対しては、所有者がほぼ同じだったこと、再開発にはどの業者もメリットが多かったことで利害が一致し計画が進んだことがわかりました。

- 委員会

渋谷未来デザインや渋谷駅中心地区デザイン会議など、学識委員、地元代表委員、行政委員が参加する委員会により、様々な立場の人が集まって意見やアイデアを出し合い、方向性を決めていく。独断でリーダーシップを取るわけではない。

- ニューヨーク、ハイラインの例



ニューヨークでは、かつて物流に使われ廃線になっていた 2.3 キロにも及ぶ高架の線路を、取り壊すことなく歩く公園としてまちのオアシスに生まれ変わらせました。造園のデザイナーなど民間の人たちも多く関わってデザインされました。それにより、寂れていた周辺の地域の治安も回復し人の行き来が活発になりました。

●ワークシートへの書き込み（まとめ）

生徒たちは話を聞き、まとめをワークシートに書き込みます。

- ・渋谷区の課題
- ・日建設計はこうした課題の経穴に対してどのような取り組みを行ったか
- ・HIGH LINE とは？宮下公園には、ほかの公園と比較してどのような特徴があったか
- ・話を聞いて考えたこと
- ・先行事例で紹介されたまちのどこなにフィールドワークで行くとしたら、どこにいったみたいか

【3学期の取り組み】

いくつかのまちづくりの先行事例について学習し、京田辺市の政策や取り組みについては上村市長自らが講演にも来てくださいました。0 から思い付くことは非常に難しいことであり先例に学ぶことは大変有意義です。また自分の思い付くことはたいがい社会では誰かが既に思い付いていると考えます。それぞれのまちの資金や住民の時間などのリソースも考慮し、効果的な政策に取り組むことの必要性も学びました。3学期は、これらの学習を踏まえ、京田辺市への政策を立案し、政策提案をしてもらいます。その政策を、実際に市の担当者に伝え実現することも目指します。皆さんの主体的な取り組みを期待しています！

京田辺市長の講演についての生徒の感想（一部抜粋）

また、京田辺市の良い点と課題点を挙げ、課題を解決するにはどうすれば良いかを具体的に考え、それを改善するために行動に移すというプロセスは私たちの生活の中で生かすことができると思いました。他にも学んだことはたくさんあり、それらもこれから私たちにとって良い影響を与えてくれると感じたので、自分の中で積極的にこれらの学びを活かせるような思考をし、行動に移していこうと思います。

感想は全員が提出しました。抜粋した感想のように、実際に何か行動に移そうと考える生徒もいて、とても頼もしいと感じました。

2023年1月14日 SSS(高1)授業「京田辺市への提案の作成について」

資料：ワークシート 3-2

さまざまな街の住みやすさを実現するための取り組みについて学んできました。それぞれの立場の人が考え、それぞれに違った取り組みがありました。3学期は京田辺市への政策提案に取り組んでいきますが、今日は提案を組み立てるにあたり大切なスキルとなる「問題解決の方法」を知るためにその方法論を坂下教諭から学びます。そして実際に課題を通して実践します。

【提案を考える前に問題解決の方法を知ろう】

重要なこと

適当な思い付きではなく、最善、最速の手を打つこと
知識として積み上げられることを考慮し、継続的な取り組みが必要であること
思考プロセスを他の人びとと共有し新しい発想に活かしていくこと
⇒ 「勘」「雰囲気」「度胸」で勝負してはいけません！

●問題解決のプロセス

実際に物事を決めたり選んだりするとき、値段や質などを考慮するのと同じ
自分の状況の理解 →できていなければ謙虚な姿勢で学びながら取り組む

↓

その分野について自分は知識や経験があるか→なければ謙虚な姿勢で学びながら取り組む

↓

問題点は何か MECE を活用

↓

漏れなくダブリなく！

解決のための仮説

↓

仮説を検証して解決策を立てる

↓

実行する

↓

成果や問題点を確認する



●実際の課題をもとに解決案も含めて考える

課題：勉強する時間がないので、改善したい

(1) まず対象である「時間」について、漏れなくダブリなく書き出してみる。

(項目の例) 睡眠、朝食、通学、授業、放課後、、といったように時系列で

(2) それぞれの時間について検討し、手段を講じられるか考える。



(検討、手段の記入例)

睡眠→減らせない

通学→減らす→引っ越す、通学方法変更、寮に入る、転校する

それぞれの手段についてさらに影響度(効果)や難易度も検討する

(3) 「時間」での検討が難しければ他の項目も検討してみる

(検討の例) 通学時間を有効に、授業時間を有効に、など

●過去の京田辺市への提案



過去のこの講座の生徒たちが京田辺市に提案した動画を帖佐教諭より紹介してもらいました。

『ジモ teen's map』地元のお店や特産物を巡る地図上のルートを作成しオンラインでも公開、更新していくというものです。地元高校生による取り組み、そして高校生らしいネーミング、実際のコースも例えば「男子より花コース」といった感じです。特産品の認知度の向上、おいしいもの、かわいいもの

など小売業の振興、インスタ映えなど注目スポットの紹介と空き家を利用した高校生による展示などもコースに加え、若い世代が中心となって地元の再発見をすることを目的とし、シビックプライドの向上を目指しています。

●京田辺市の提案にあたり課題をしっかりと理解する

さきほどの提案においても、「特産物が多いのに認知度が低い」、そして「空き家が多い」という2つの課題を取り上げていました。提案を考えるうえで、課題を知る大切さについて吉田教諭よりお話を聞きました。課題をきちんと理解しないと、的外れな提案になってしまいます。いくつかの課題に対する京田辺市の取り組みについては、京田辺市のホームページでも紹介されています。まず皆さんには京田辺市の3つの課題をそれぞれピックアップしてもらいます。そしてその3つの課題に対して、どのような解決策があるのか。影響、難易度はどうか、調べ、共有し、そして話し合います。今日学んだ問題解決のプロセスを活かして解決策をみんな考えていきたいと思います。



2023年1月21, 28日 SSS(高1)授業「京田辺市への政策提案」

資料：ワークシート 3-3

今日は、いよいよ京田辺市への提案をグループに分かれて考えていきます。各クラスで取り組む課題ごとにグループ分け、グループ内で政策案をシェアします。

●行政手法の考え方

【政策】課題解決のための手段のことをいい、特に公共的課題を解決するために立案される政策を公共政策という。

【公共政策の階層性】政策 (Policy) 施策 (Program) 事業 (Project)

【公共政策】「目的」と「手段」で構成され、手段のことを行政手段という。

行政手段；規制的手段「～禁止」「～には許可が必要」など

非規制的手段；税金や利用料の徴収、補助金を出すなど経済的手法

どのタイプのもを提案してもよいが、効果や実現のしやすさなども考慮しながら、何より自分たちが「こういう政策が実施されれば嬉しい」と思うような取り組みを自由に考えてみましょう。行政も住民の意見を取り入れようという方向性にあり、社会全体的トレンドといえる。



●まちの課題と政策案

それぞれが考えた課題3つとは... グループでシェアして最終的に1つに絞ります。

グループは、この問題意識が同じようなメンバーで構成されるようにしています。

- グループ分け
- 1 景観・空間・公共施設
 - 2 災害・防災
 - 3 少子高齢化・健康
 - 4 つながり (人のつながり)
 - 5 つながり
 - 6 安全
 - 7 キャセロール
 - 8 話し合い中

課題をシェアしたのちは、課題策を話し合ってみよう。その際、以前取り組んだ評価項目を使って、取り組みやすさや費用、生活の向上など比較検討も忘れずに。京田辺市のような地方の都市は大阪市などの大都市と違い、税収が低いことから財政面も厳しい。安心安全な道路環境から、観幹線道路に歩道橋を渡すという提案も聞かれましたが、こちら負担の大きいことは持続可能性という観点からは疑問。費用を調べるなどみんなで考えていきましょう。



●グループで政策案をまとめ発表準備をする

発表資料となるスライドには、京田辺市のどの課題に対しての解決案か、解決策の提案とその理由、解決策の詳細、期待される効果といった順で、わかりやすくまとめることが大切です。またその政策案について、取り組んできた評価項目できちんと評価をし、費用対効果もきちんと説明できると良いです。着眼点はよくても、コスト・時間の点を考慮してください。



●役割分担と取り組み

生徒たちはグループ内で役割分担をして、早速作業を進めていました。自分の担当分を終わらせることも大事ですが、それぞれの資料がグループ全体でみてきちんと統一感を持たせることも意識します。この日は、役割分担の内容（パワーポイント、発表者などの担当）、政策の内容（根拠・目的・手段・効果など）をまとめたものを提出します。

教員から以下の2点について意識をするように付け加えてアドバイスがありました。

- ① その政策案の根拠となる課題は、果たして多くの人が問題視していることなのか
- ② 参考にするサイトはどの程度信ぴょう性のあるものなのか（資料にも出元をきちんと表示すること）

今後の SSS スケジュール

- 2月4日 クラス内でプレゼンテーション
パワーポイントなどを作成し、なるべく具体的かつ詳細な計画を伝える。
- 2月18日 各クラス代表による再セクプレゼンテーションコンテスト
- 2月25日 まとめ

★皆さんの考えた政策案を実際に京田辺市に提案することを目指しています！

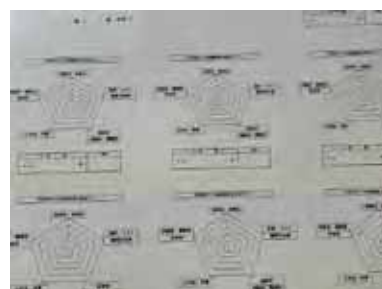
2023年2月4日 SSS(高1)授業「京田辺市への政策提案 ークラス内発表」

資料：ワークシート 3-4

京田辺市への政策提案をグループで取り組んできました。いよいよ今日は、クラス内で各グループが発表をします。生徒たちの手元には評価シートがあり、それぞれのチームの発表を聞き、評価の観点を考慮してメモを取ります。最後には、全体の評価を振り返り、総合的にクラス代表としてふさわしい政策案を1人1人が決定して提出します。

●評価ポイント

実現性・実用性/費用対効果（効果・コスト）/独自性
（独創的・画期的）/公平性・平等/将来性（持続性・
維持性）



●発表 ーA組



【空き家を減らして安心安全な京田辺へ】

課題として空き家問題を取り上げ、若者を中心に高齢者も巻き込み、空き家利用でカフェ、シェアオフィス、ストレージ、民泊などを運営する。

【若い層に京田辺を知ってもらう】

若者の定着率が低いことを課題に取り上げ、京田辺市の高校生と市役所が連携したインスタグラム委員会を立ち上げより多くの情報発信を継続的にする。



【少子高齢化対策】

少子高齢化を課題に取り上げ、京田辺市の体験プログラム、空き家を活用した移住体験など企画し、若い年齢層を呼び込む。行政にも補助をしてもらい後押しをする。

【京田辺市を観光地へ】

市の認知度の低さと労働人口が少ないことを課題とし、既存のものを見直し活用する企画として「京田辺市野外活動センター」を地元の人や観光客の憩いの場となるよう整備する。



【交通整備に関する政策】

街灯が少ないことを課題として取り上げ、LEDや太陽自家発電の街灯を増やし、設置しやすいフットライトなども問い入れて電力も抑えつつ雰囲気もよく安全安心なまちづくりをする。

【自転車のレンタルサービスの普及】

満足度調査で買い物の不便さが上位だったことを課題として取り上げ、都合の良い時、場所で乗降できる自転車ポートと幅広い年齢層に対応したレンタルサイクルを整備する。



【ヘルスフェスタの開催 -ヘルスターズ】

市に寄せられた要望から気軽な健康作りを課題として取り上げ、田辺公園にて、特産品の販売、市民の交流などを取り入れたヘルスフェスタを毎月開催する。

【つながり「京都コネクト」】

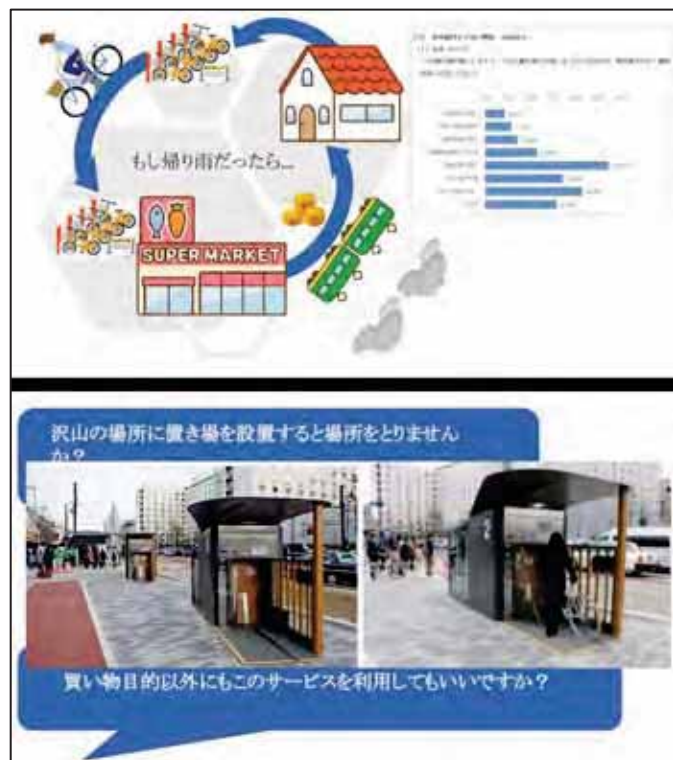
コロナ禍でますます希薄となった人と人の繋がりを課題として取り上げ、昔ながらの京田辺駅東側商店街の活性化、地元の商店による週末限定の露店など開催し、交流の場を作る。



●A組のクラス代表チーム

生徒たち各自が記入したチャートはすぐに集計されました。その結果、【自転車のレンタルサービスの普及】を提案したチームが代表に決まりました。サイクリングポートやレンタルサイクルの普及を通して、誰もが公平に利便性の良さを実感することができること。また利用者にはバス利用時のポイントの付与など公共交通との連携、自家用車中心から自転車や公共交通の利用促進による、安全なまち、住民の健康増進も叶えるというコンセプトが評価された理由でした。これまでに学んだ街の取り組み、コンパクトシティも参考にしていました。

2週間後にホールで全体発表に臨みます。それまでに、評価シートの結果を分析し、また Google Classroom に寄せられた他チームからの「発表に対する意見」「改善点」を考慮し修正を加えてさらに提案をブラッシュアップする予定です。



2023年2月18日 SSS(高1)授業「京田辺市への政策提案 ークラス代表発表」

資料：ワークシート 3-5

京田辺市に政策提言をすることが SSS の最終目的ではありません。さまざまな地域、街があり、それぞれに違った視点、考え方があり、都市計画が行われているということを学んできました。その一環として京田辺市への提案をまとめ、発表しました。今日はそのクラス代表が学年全体の前で発表します。ワークシートへは、各クラスの発表の感想に加えて、気付いたこと、アドバイスなど記入します。京田辺市には提案と合わせてこちらもお渡しできればと考えています。

【A組 自転車レンタルサービス】



京田辺市がおこなった満足度調査で、住み続けたくないと感じた人の主な理由として「買い物が不便」という意見が多いことから、これに対する問題解決を提案。自転車レンタルアプリを開発、街、利用者の双方にメリットのある仕組みを取り入れ、その運用は住民の意見を取り入れながら発展させていく。質疑応答形式でより具体的な説明をする工夫を取り入れ説得力を持たせていました。

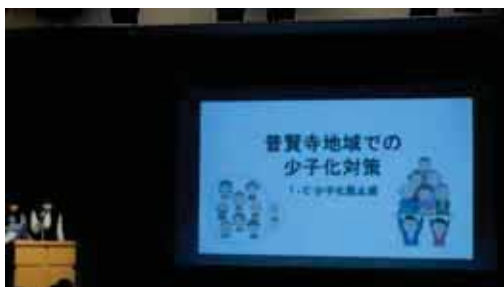
【B組 コミュニティカフェの活性化】

人と人の繋がりという観点からの政策提案。人の繋がりを深め、特産品の認知度も上げる。特に大学施設などを活用して若者を対象に地域の活性化を図る。カフェ駅などで宣伝、メニューの一部を地域の学校で販売、農業体験を実施する、SNS の活用。今ある街の魅力を再発見、



大学生の多い街の特徴を活かす、実施可能性の高い提案でした。

【C組 普賢寺地域での少子化対策】



京田辺市が行ったアンケートから、普賢寺地域での子育てについての満足度が低く、特に公園の改善の要望があることから、普賢寺公園と公民館のリニューアルの提案。全世代の楽しめる公園の整備、ウォーキングエリア、遊具、地産地消の素材を扱うキッチンカーの出店。公民館では保護者の情報交換の場、支援受付の窓口、学びの機会を設定。同志社と京田辺が繋がり、合同イベント、特技でフランプリ、大学教員による子どもたち向けの講座、農業体験、すぐには難しくてもワクワクさせられる提案でした。

【D組 少子高齢化対策と保育サービスの在り方】

一刻の猶予を許さない少子高齢化の一方で、待機児童が減少しない現状の双方の解決策として、若い世代が子育てのしやすい京田辺市を目指す提案。保育園の入所希望者を条件を元に点数化し、誰がどの程度必要としているかを明確化、効率化を図る。地域のベビーシッター制の導入。問題解決と地元の雇用も創出する提案でした。



【E組 田辺公園活性化案】

「京田辺市の公園の数、何個が知ってますか？」101個ある公園ですが整備が行き届かず



十分に活用されているとはいえないことから、放置林の整備による田辺公園の拡大を提案。カフェ、ランニングトラック、人工芝エリアの増設とそれらを活用したイベントの開催で住民の憩いの場所に、また人びとを集め繋がる場所に。公園でのマーケットでの特産品の販売等、公園の活性化により

さまざまな複合的な効果も狙った提案でした。

【F組 グランピング施設を建てる！】

自然を整備してグランピング施設をつくり、まちの活性化、誇れるまちを目指す提案。話題性と若い世代からの指示、自然保護の取り組み、補助金など利用した金銭面での取り組みやすさ。話題性で市外からの人も呼び込み、自然保護という観点でも観光につなげる。関西の真ん中であるのに静かな立地、コロナでのアウトドアの見直し、またコロナ緩和後の観光業復活の兆しの中で実現可能性の高さを訴える提案でした。



全クラスの代表の発表が終わりました。どのクラスの提案も個性があり、プレゼンもとても上達していました。なにより楽しんでいる様子がとてもよかったです。地域を限定したもの、全体にしたもの、取り組みやすさもそれぞれ差が生まれました。ただこれは、1年間の学びのまとめとして取り組んだ課題であったため、学んできたことや知識がどの程度活かされていたかもとても大きなポイントでした。聞き手としては、しっかりその点を理解できたかどうか。実際に自治体が取組みとなればどれくらい大変なことか、課題の解決は容易ではないことはよくわかったはずです。正解は1つではないこと、さまざまな意見を聞くことの大切さを学んだと思います。発表の仕方や結果だけに注目するのではなく、どのようにしてそこにたどり着いたかという過程をみることも大切です。そういったことを振り返りながら、最後のまとめの課題に取り組んでください。

2023年2月25日 SSS(高1)授業「1年間の授業で学んだことの振り返り」

資料：ワークシート 3-6

SSSの最後の課題は、1年間の講座で学んだことをミニレポートにまとめることです。今日は教員の話から3つの観点について振り返ります。1年間の授業の内容を思い返し、改めて学んだことを復習して欲しいと思います。お話から一部抜粋して紹介します。

●知識・内容について ー朴元教諭(1学期)・吉田教諭(2学期)



1学期は基本的なことを学びました。SDGsについてよく見聞きするようになったころ、私たちはその17の目標のなかの「8 住み続けられるまち」について問題解決を考えることにしました。そのために、学校外からまちづくりや公共空間デザインの専門家である武田先生に直接お話を伺うことができました。どういった視点でまちづくりと向き合うのかを学び、

キーワードとして「civic pride」という言葉が印象に残っているはずです。

2学期は、実際の街づくりの先行事例について具体的なまちの取り組みを学びました。教員も役割分担、それぞれの教員が実際に訪れたまちのレポートを聞きました。地域は全部で6カ所ありました。神山町、上勝町、岡山市、富山市、京田辺市、渋谷区です。それぞれが異なる課題を抱え、そして異なる独自の取り組みをしていました。移住者の受け入れ、住民によるビジネス、人を中心としたメイン通りの整備開発、効率的で健康的なまちづくりのコンパクトシティ、郷土愛、公園や駅の整備による100年に一度の再開発などそれぞれ思い出されると思います。他の取り組みから学ぶことはたくさんありました。行政と住民がつながること、人と人との繋がりの大切さは特にどこの地域でも印象にあると思います。高校生であっても市政にその意見を反映させることができるということも学びました。



●アカデミック・スキルズについて ー坂下教諭(講演の聞き方と探求の流れ)・松野教諭(発表の際の資料作成について)



問題解決は、思い付きやひらめきだけではできません。論理的に物事を分析し、その分析をもとに説得し納得してもらうということが大前提です。そのための手法があることを学びました。実際に話しを聞くというのは、とても有効な資料となりますが、そのための準備や聞き方次第でずいぶんと理解力に差がついてしまいます。しっ

かりと準備をして、初めて、話しを聞くことによる新しい発見や、研究者の思いを知ることができます。

探求の流れとしては、取り残さず問題を分析する、どういう風によりサーチを進めるか、そして批判的な思考も大切に考え、話し合いを重ね、構築していく作業がありました。失敗も経験の1つ、経験を積んで、他者からも学び、今後もトライをして欲しいと思います。この探求のプロセスは、自分の意見をしっかりと伝えるための重要なものなので、今後も自分のため、社会のために役立ててください。

発表のための資料の作成では、さまざまな実際の例を紹介しながら、パワーポイントの構成やデザインの工夫について学びました。誰のための何のための発表か明確にすること。基本を知ってスライドの第一印象に気を配ることはとても大切です。またここで学んだことは、これからの多くの場面で、必要になってくるスキルですので活用して欲しいと思います。



●社会との関りについて –北川教諭・帖佐教諭によるディスカッション形式にて
帖佐「チームティーチングを実践していますがSSSと教科の関りについてどう思いますか？」
北川「私の専門は美術科ですが、データ処理、パワーポイントのデザイン、問題解決もやはり教科と関係しています。他に理科や社会、情報や家庭科においても、それぞれの特色を活かし授業に取り込んでいたと思います。教科を超えた視点でさまざまな立場の人の意見を共有できたことも重要な経験だったと思います。」
帖佐「自分の意見も大切にしながら、いろいろな人たちの話を聞き、また話し合ったことはすごくよかったですね。京田辺市住民でもある北川先生は皆の政策提案を聞いてどう感じていましたか？」
北川「まず京田辺市のことを皆で考えてくれてありがたいという気持ちになりました。生徒とこの講座を通して、まず自分自身が変わりました。住民である私でも50数年間いて、ここまで京田辺のことを考えることは今までになかったからです。皆にも同じように、自分の住むまちについて知って欲しいと強く感じています。遠くに住んでいても、ふるさと納税というまちの取り組みを支持して応援できる仕組みがあったりします。高校生だからと諦めずに高校生の立場で気になる視点もぜひ大切にしたいと感じました。」
帖佐「お金がないとやはり市政は運営できない。そういった視点でできることを考えてみることもいいですね。それからどんなまちが魅力的だと感じますか？」
北川「住むとしたら、働くとしたら、学生として過ごすとしたら、年齢によっても優先順位が異なり一概には難しいですが、何を中心に考えるかだと思います。自分たちのまちは自分たちで変えることができる、参加できることを知ったことは今後役に立つと感じます。」
帖佐「都会派、田舎派でも分かりますね。その理由も人それぞれですが、なぜそう思うのかを考えてみることはおもしろいと思います。いろいろな人がいるところが、まちづくりの難

しさでもありますが、おもしろさでもありますね。どの街も画一的になってしまえばそれもおもしろくないわけです。最後にこの講座を終えるにあたり、どのように感じますか。」北川「映画の最後に流れるエンディングロールを想像しています。いろいろな場所の取り組みを知り、行ってみたいとわからないこともたくさんありました。富山でいうと3回行きましたが、知る前、そして今回行ったあとでは印象はまったく異なるものでした。最近のブラタモリの富山編では本当に自分の理解が深まっていたのですごく楽しく観ることができました。知ることで自ずとシビックプライドが高まるということも自ら実感しています。新しい発見や新しい視点があることを知り、得たものがとても大きいと感じています。この講座では教師も常に学んだ1年でした！」帖佐「まだまだ知らないことがある！そして何が課題かをよく考えること、疑問を持つことが探求の基礎になりますね！」



本当に1年間おつかれさまでした！

●生徒たちの振り返り（ミニレポートより抜粋）

色々な立場の人がいるからゴールは一つではないと言うのを学んで、自分が色々な立場を想像して物事を捉えなければいけないのだなと考えました。まちはみんなのものだから、大多数の人の利益を考えるだけではなく少数の人のことも考えることが大切なのだと思うように変化しました。

どのまちも皆、地理的に違いがあり、その違いからあらゆる面も違ってくる。産業も、住む人の年代も、どこが弱くどこが強いのかも変わってくる。だから、こんなまちであるべき、というような細かい定義はなく、そのまちに適するまちづくりが必要だと知った。柔軟な考え方によって、前例にとらわれずに独自のまちをデザインすることが求められるのだろう。

今学期の学びから一つ気付かされたことは、街の"価値"、素敵なおとこ、は探せば沢山見つけられることです。今まで京田辺市のまちの特徴に気を配ることなく、ただ"何もない田舎な街"だと思っていました。しかしこれは"街に素敵なおとこがない"、のではなく、私が"街のいいところを見ようとしていなかった"からである。身の回りに当たり前だと思っていた整備、企画、パブリックスペース、などをまちづくり一部をして意識して、京田辺のことについて学んだ結果、京田辺市の魅力が見えてくるようになりました。京田辺市の特産品、豊かな緑、とても明るい京田辺市長、同志社との連携活動など、京田辺市ならでの特徴がわかりました。今学期で京田辺のことについてよりよく知ることができ、京田辺市が結構好きになりました。

SSS の授業を受けて単純に自分の街を振り返る機会が増えたり、どこ住みたいって聞かれた時とかにも今まではハワイ〜とかで適当に答えてたかもしれないけど、このこーいう施設は環境にも利益にもつながるしここに住みたいって考えるようになってきた。この授業で東京の公園の話とかおばあちゃんたちが葉っぱを売ってる話とかを聞いたりして新たな目線でものを見るようになった。

SSS は中学の頃までは受けたことのない科目で国算理社 etc.で教わったこととは全く違う視点からの学習でした。また SSS は町作りのことや、発表やプレゼンなどで使えるスキル、社会と人の関わりについてなどについてなど、将来自分が社会に出て生きていく時に様々な場面において必要になるであろう知識を沢山教わった授業でした。SSS の授業は私にとって、普段の勉強からは得られないような知識を沢山学ぶことができた貴重な体験になりました。

今日、最後の授業で帖佐先生が都会派か田舎派か松野先生に聞かれていました。松野先生は都会派を選ばれていましたが、僕は断然田舎派です！うるさい人間関係もないし、四季がはっきりしていてとても綺麗で、何より自然を直に受け止められるような環境だからです！将来、どこか落ち着いたところでのんびりと暮らしたいです。しかし、かなり前の SSS の授業で田舎の都会化が徐々に進んでいると学びました。ここで 1 つ思い出したのが、3000 年くらいの日本を描いたゲームの事です。そのゲームでは、街が人工物と人間で埋め尽くされて、車や電車の騒音でいっぱいでした。いつかはこうなってしまうのだろうかと思うととても恐ろしく感じます。SSS の授業を受けるまではこのような発想は到底浮かびませんでした。頭が柔らかく、深く考えるようになったので想像力が豊かになりました。発表もその準備もものすごく楽しかったし、もっと学びたかったです！

私はこの一年を通して、もともと興味を持っていた SDGs のゴールの一つである街づくりについて学べたことがとても嬉しいです。自分の住んでいるまちがどんな政策を行っているのか、いい街とはなんなのか、など気にしてこなかったまちづくりに関して深く考えるきっかけとなりました。先生方がおっしゃっていたように、実際に何か貢献できるかは別として、この授業を受けたということだけでも街を見る目が随分と変わったし、行政に対する信頼や感謝、興味が湧いてきたので、来年からの SSR も楽しみにしています。

I believe that I was able to gain a newfound appreciation for the place I live in. Learning about a new environment and different ways of seeing a situation was interesting.

この授業を最初受け始めた時は正直、「この授業は役に立つのかな」と思ったこともありましたが、この一年間学んで、授業で習うたびに自分の知識や視野を広げることができて、町に対する考え方も変わり、政策作りについても学ぶことができ、とても役に立つ充実した授業でした。本当にこの授業を受けることができてよかったなと思えました。

SSSを通して、日常の何気ないものや出来事にも理由があり、それに目を向けることの必要性を知った。様々な物事には理由があり、それを分析することで多くの新たな観点が生まれ、社会に良い影響があると、学んだ。大学生になったら、自分の考えに説得性を持たせたり、上手く表現する力が必要なので、常に視野を広く持ち、色んな考え方やプロセスを身につけたいと思う。

どのまちも皆、地理的に違いがあり、その違いからあらゆる面も違ってくる。産業も、住む人の年代も、どこが弱くどこが強いのかも変わってくる。だから、こんなまちであるべき、というような細かい定義はなく、そのまちに適するまちづくりが必要だと知った。柔軟な考え方によって、前例にとらわれずに独自のまちをデザインすることが求められるのだろう。

私は1年間、町づくりについて学んで、町づくりのこと以外にも沢山学ぶことができた。例えば目を引くポスターの作り方や正しい質問の仕方など幅広くまちづくりを通して学べたと思う。それと同時に夏休みの課題など自分の町を知るきっかけにもなった。自分の町についてこんなにも考えたことはなかったし、SSSの授業がなければ考えることがなかったと思う。学んだ上でもっと今住んでいる町に感謝し、よりよい町づくりに貢献していきたいと思った。

SSSのクラスで学んだことは課題・問題への取り組み方です。違う視点を持ち解決法を多数作り、そこから一番適する解決法を選ぶということです。これを学び、自分が人生で詰まったとき活用できると思います。

話し合いの場が増えたことによって自分の発言する時が多くなりました。話を聞く態度をよく学びました。

二度とないこのメンバーでのチームティーチング、「まちづくり」という共通のテーマのもと、それぞれの教員の立場から教わり、また一緒に学んだ素晴らしい1年でした。次年度は選択科目となり SSR(Sustainable Society Research)として学びを進めていきます。